

# 10課

12月7日

## 道、真理、命



わたしは、あなたに神の真理を教え、  
神と共にある永遠の命に導く道である。

ヨハネによる福音書14：6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。

ヨハネによる福音書8：12 イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

■ TANIGUCHI

自分の魂の救いにかかわる問題である以上、人は自分で聖書を探求しなければならない。

(正しい道標みちしるべのもとに 各時代の争闘 第37章 ただ1つの防壁—聖書 希望への光 P.1890)

わたしは、救われるために、何をすべきかと、あなたは、おたずねになるであろうか。それでは、あなたは、まず研究に入るにあたって、先入観、すなわち自分のもっている先天的、後天的の考えを捨てなければならない。自分の意見を支持する目的で、聖書を探究するならば、決して真理を発見することはできない。主は、一体、なんとおっしゃられるかということをおぼえのために、探究しなければならない。探究しているうちに、強く心に感銘を受け、たとえ、自説が真理と一致していないことがわかって、それに合わせようとして、真理を曲解せずに、与えられた光を受け入れなければならない。神の言葉の中から驚くべきものを見ることができるようになるように、心を開かなければならない。

(宝の探究 キリストの実物教訓 第8章 隠された宝物 希望への光 P.1226)

キリストの精神をもって、聖書を探究するものには、必ず報いが与えられる。人が幼児のようにすなおな態度で教えを受け、神に絶対的に服従するならば、神の言葉の中に真理を見出すことができる。人々が従順になる時に、神の政府の計画を理解することができるようになるのである。探究者の前には、天上の世界の美と栄光とがますます輝かしく開かれることであろう。その時、人類は、現在とは全く変わったものとなることであろう。というのは、真理の探究は、人間を高めるからである。贖罪、キリストの受肉、キリストの贖罪の犠牲などの神秘は、現在のようなく然としたものではなくなる。このような問題に対して、わたしたちは、更に理解を深めるばかりでなく、その真価をより高く評価することができるようになる。

(探究の報い キリストの実物教訓 第8章 隠された宝物 希望への光 P.1227)

私たちが**心**しなければならぬことは…

フィリピの信徒への手紙4:7

そうすれば、あらゆる**人知を超える (passth all understanding)**神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

=そうすれば、**人間の理解をはるかに超えた**、すばらしい**神**の平安を経験します。キリスト・イエスにあって、その平安はあなたがたの心と思いを静め、安らかにしてくれるのです (LB)。

人は、**人知を超えた喜びと愛と不変の知恵 (=キリストの愛)**が存在することを**知って**、クリスチャンの望みと目的、そして地上でのクリスチャン教育が目指している**天に行く準備がどんなものかを理解します**。**この教育を守り行い、他人にも勧めると同時に必要な手助けを与えることがクリスチャン生活の目的となるべきです。**  
(次世代につなぐ信仰 第2章 私たちの学校の目的 教育者としての聖書より)



ヨハネによる福音書13:7

イエスは答えて、「**わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる**」と言われた。

## 聖書は真理の真実の証し → 真理 ≡ イエス・キリスト

神の霊の導きの下に書かれた聖書は真理(イエス・キリスト)についての真実の証しである！ 

▶ヨハネによる福音書 5:32 わたしについて証しをなさる方(=父なる神)は別におられる。そして、その方がわたし(=イエス・キリスト)についてなさる証しは真実(→true: ἀληθής alēthēs, al-ay-thace'アレテイス)であることを、わたしは知っている。

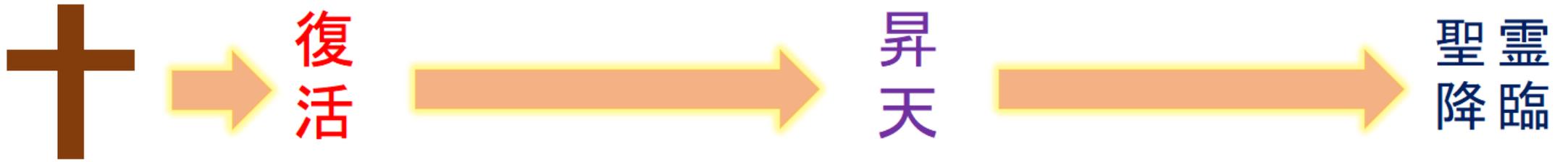
▶ヨハネによる福音書 5:39 あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたし(=イエス・キリスト)について証しをする(→イエスは人類の罪の贖い主であり、神の救いの計画の中心である)ものだ。



▶ヨハネによる福音書 18:37

そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたし(=イエス・キリスト)は真理(→the truth: ἀλήθεια alētheia, al-ay'-thi-a アレイタヤ)について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」

▶テモテへの手紙二 3:16 聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。



1	2	3日目	2日目	3日目	...	39日目	40日目	41日目	42日目	...	49日目	50日目
金	土	日	月	火	...	水	木	金	土	...	土	日
三日目に復活		↓ 特別の安息日／大事な日／a high day(ヨハネ19:31)						50日後に集まって祈っていた弟子たちの上に、降った(使徒2:1~4) 聖霊降臨日(春の収穫感謝祭の「五旬祭(ペンテコステ)」の日)				

➤ イエスの死→墓に葬られる →復活する→マグダラのマリアに現れる=ヨハネ20:11~18 参考:キリストの復活 生き残る人々 第30章  
 墓の中を見ていたマリア(→マグダラのマリア)が振り返ると(→後ろを振り向くと=ヨハネ20:14)、イエスが近くに立っておられるのが見えた(→復活)が、しかしマリアにはそれがイエスであるとはわからなかった。イエスは、彼女がなぜ泣いているのか、まただれをさがしているのかと、優しくおたずねになった。マリアは、**あなたがイエスを運び去ったのだったら、イエスの天来の声で「マリアよ」と仰せになった(ヨハネ20:16)。** **あなたがイエスを運び去ったのだたら、イエスの天来の声で「マリアよ」と仰せになった(ヨハネ20:16)。** **あなたがイエスを運び去ったのだたら、イエスの天来の声で「マリアよ」と仰せになった(ヨハネ20:16)。**  
**過越祭と七週祭(五旬祭)**  
 だきつこうとした。すぐさま行って、『わたし、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみものへ上って行く』と、彼らに伝えなさい』と仰せになった。(ヨハネ20:17)。マリアはうれしい知らせをもって、大喜びで弟子たちのもとへ急いだ(→ヨハネ20:18)。  
 ➤ ① イエスは神が犠牲(いけにえ)を受け入れたもうたことを神の口から聞き、② 天と地の一切の権力を受けるために、すぐに天父のもとへお上りになった(→昇天)。  
 ➤ 天使たちは、雲のようにむらがって神のみ子をかこみ、栄光の王が入りたもうように永遠の門に開けと命じた。③ イエスは神の御前にあって、光り輝く天使の群れと一緒におられる間も、地上の弟子たちのことを忘れず、再びもどって彼らに能力をさずけるために、その能力を天父から受けたもうた。  
 ④ 同じ日にイエスは地上にもどって、弟子たちの前に姿をあらわしたもうた(→ヨハネ20:19~23)。⑤ イエスは、天父のもとにのぼって能力(→天と地の一切の権力)を受けたもうたので、こんどは弟子たちがご自分の体にさわるのをおゆるしになった(→ヨハネ20:24~29)。

## ヨハネの黙示録 4:01

その後、わたしが見ていると、見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラッパが響くようにわたしに語りかけるのが聞こえた、あの最初の声があった。「ここへ上って来い。この後必ず起こることをあなたに示そう。」

come again → second coming

## ヨハネによる福音書14：03

行ってあなたがたのために場所を用意したら、(必ず)戻って来て、あなたがたをわたしのもとのに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。

## ヨハネによる福音書14：18

わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。

## ヨハネによる福音書14：28

『(父の命により)わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。

## ヨハネの黙示録22：20

以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください Marana,tha 。  
Surely (必ず) I come quickly.

↓

国立天文台 > 暦計算室 > 暦Wiki > 要素 > 1週間とは？

Google 提供

暦Wiki

安息日+

サバット

巷の誤った情報(例)

大浦天主堂(国宝)

日本之聖母像 →

↑

誤解を生む記述

誤解の記述

- ユダヤ教
  - 旧約聖書創世記の「神が天地を6日間で創造して7日目=Sabbathに休まれた」という記述にもとづき、これを安息日とします。
  - 現在では土曜日(金曜の日の入りから始まる1日)を安息日としています。
- キリスト教
  - イエス・キリストの復活を記念して安息日とします。
  - 当初はSabbathを安息日とするものと日曜日を安息日とするものが混在していたようです。
    - 321年、コンスタンティヌス帝は日曜日を尊ぶべき日(Venerabili die Solis / Venerable Day of the Sun)として仕事を休む日にする勅令を出しました。
    - 325年、ニケア宗教会議でユリウス暦によるイースターの決定法が確立しました。
    - 364年、ラオディキア宗教会議において、Sabbathではなく日曜日を主の日(Dies Dominicus / Lord's Day)として休むことになりました。
  - これにより日曜日が安息日に確定しました。
- イスラム教
  - 金曜日に預言者ムハンマドがメディナに逃れたのを記念して金曜日が安息日となっています。



2024.12.03現在

## 聖書暦の一週間

聖書暦の一週間は、太陽暦のように「月、火、水、木、金、土、日」という名称を使いません。

第一の日:ヨム・リション(日曜日)、第二の日:ヨム・シェニー(月曜日)、第三の日:ヨム・シルシー(火曜日)、

第四の日:ヨム・レヴィー(水曜日)、第五の日:ヨム・ハミシー(木曜日)、第六の日:ヨム・シシー(金曜日)、

第七の日:ヨム・シャバット(土曜日)=安息日。「ヨム」は「日」を意味する。

イスラエルでは、金曜日の日没後から安息日が始まり、その時間から翌日土曜日の日没までが「休日」となります。